

北広島町立芸北小学校

ミッション		社会の中で自律して生きる力を有した子供を育てる																	
学校経営基本方針		すべての子どもたちに健やかで安全な学びの場を提供し、一人ひとりの力を最大限に引き出す教育を実現する。																	
学校教育目標		めざす自分をえがき 自らよりよく生きようとする児童の育成																	
めざす子ども像		○自分で考え 挑戦する子 ○互いを尊重し 力を合わせる子 ○楽しさを作り出す子																	
めざす教職員像		○児童の思いを受け止め、意欲を引き出す教職員 ○使命を自覚し、自らを高めていく教職員 ○良さを認め合い、協働して進む教職員																	
研究主題		自分の考えをもち、表現できる児童の育成 ～算数科における「共学力」の育成を通して～																	
目標		実践		評価基準					評価		評価基準		評価基準		評価基準				
中期経営目標		短期経営目標		目標達成のための方策		評価方法		a目標値 (中間)	目標値 (最終)	b今回の 達成割合	達成割合 (最終)	目標に対する 割合b/a	評価	成果と課題の分析		改善の方向性		学校運営協議会	
健やかな心と体	心身の健康をめざし、自ら鍛え整える力をつける	①体力・運動能力向上	①業間運動(サスケタイム)の充実させる。 (晴天の時:5分間走、雨天の時:縄跳び) ②縄跳び・一輪車ステップアップカードを実施する。	○5月と11月に持久走を測定し、走るタイムが向上した児童の割合【中間】 低学年→500m 中学年→800m 高学年→1000m ○縄跳び・一輪車の技をステップアップできた児童の割合【最終】	90%	90%	84%		93%	3	○音楽を流したり、児童に声を掛けたりすることにより、サスケタイムに対する意欲を持続することができた。 ○行事や雨天時にもサスケタイムを中止せず、児童が運動を継続的にできるようにすることができた。 ●90%の目標にしたが、学年に一人も体力を下げる事が許されなかったため、設定目標が高すぎた。 ○運動会で一輪車の表現を3・4年生が見せたことで、1・2年生の一輪車への意欲が向上した。 ●1学期に3・4年生は一輪車の取組を進める	○サスケタイムをより児童に寄り添ったものにするために、音楽を児童から募る。 マラソン大会の告知を早めに行うことや、サスケタイムでの距離を意識させることで、児童が体力を向上させていることを実感できるようにしていく。 各運動カードの集計を行い、全校で評価する場を持つようにすることで、一人一人の意欲を高めたり、学校全体で努力している人を認めたりしていく。	A	・サスケタイム、子供達が一生懸命走っていてよい。 担当の先生がアナウンスしながら児童の意欲を引き出しているところがよい。 ・休み時間に外で遊ぶという事は続けてほしい。					
		②健康を整え安全を作り出そうとする意欲の醸成	①「生活リズムを整えメディアコントロールチャレンジ」の取組を1年2回実施する。(各学年に応じた指導) ②安全行動を意識付けるとともに注意喚起を随時行う。安全教育の計画的な実施と充実を図る。 ③安全朝会(年2回)のいのちの安全教育を全学年で実施する。	○「生活リズムを整えメディアコントロールチャレンジ」の取組期間で決めたコースが5日間守れた児童の割合 ○安全行動に関するアンケート(児童・職員)における肯定的評価の割合	75%	75%	76%		101%	4	○取組み表を毎日提出させ、コメントをしてシールを貼ったことで、児童の意欲を持続できた。また、目標を自分で決めたことで取り組みやすかった。さらに、中学校や家庭との連携もできた。 ●メディアコントロール取組み前の意識づけが不十分だった。 ○日常の指導も担任を中心に実施した。講師を招いて防災教室を行い、安全への意識づけができた。	・各運動カードの集計を行い、全校で評価する場を持つようにすることで、一人一人の意欲を高めたり、学校全体で努力している人を認めたりしていく。 ・事前の全体指導を行い、メディアをコントロールする必要性を意識づけ、取組みを行う。 ・中学校や高校と時期を合わせて、連携した取組を継続する。 ・いのちの安全教育を実施し、よりいのちの尊厳に対する意識を高めていく。 ・日常生活で、その都度指導を行う。	A	・特になし					
豊かな心	他者とともによりよく生きる基盤となる道徳性を育てる	自分の思いを伝え、人間関係を積極的に紡いでいこうとする力の育成	①人間関係を紡ぐ力をつけるための作戦「人とながら4つの方法」を実践させる。 ・友達のことを知る。 ・友達の良いところ・頑張りを見つけて(伝える) ・友達と一緒に何か(活動)をする。 ・友達のためになること(役に立つこと)をする。 ②朝の会、帰りの会、学級活動の始めにショートエクササイズやベアトークやグループトークをする。	○児童アンケート「自分の思いを伝えることができる」「学年関係なく、誰とも力を合わせて活動することができる」における肯定的評価の割合	80%	80%	100%		125%	4	○人間関係を紡ぐ力をつけるため「人とながら4つの方法」を朝の会、帰りの会、学級活動に取り組むことにより自分の思いを伝えることができる児童が増えた。 ○ショートエクササイズやベアトークやグループトークをすることで自分の思いを伝えることができた。誰とも力を合わせることができた児童が増えた。 ○オフィシャルタイムを設定し、児童主体でレクを企画し、児童同士が楽しみながら関わり合うことができるようになった。	・引き続き、人間関係を紡ぐ力をつけるための作戦を活用し、人間関係をさらに深めていきたい。 ・ショートエクササイズやベア、グループトークにも引き続き取り組み、学年関係なく力を合わせる活動を進めていく。 ・オフィシャルタイムをさらに充実させていく。	A	・昨年度までになかった取組も行い、成果が出ていると感じる。					
確かな学力	知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力・表裏力を主体的に学習に取り組む力を育成する。	①基礎学力の定着 ②自分の考えを表現できる力の育成	①「放課後パワーアップ」に、15分間学力補充の時間を確保する。 ②算数科授業で、全員が対話する場を多く設定する。 ③授業研究を通して、対話のさせ方の工夫を学ぶ。	○算数科の単元末テスト(知識・技能、思考・判断・表現の合計)の平均80点以上の児童の割合 ○児童アンケート「自分の考えをもつことができる」「授業中に自分の考えを伝えることができる」における肯定的評価の割合	75%	80%	95%		119%	4	○授業の時間に加え、放課後パワーアップを活用して習熟を図ることが基礎学力の定着につながっている。 ●学級によって放課後パワーアップの取組状況にばらつきがある。 ○児童から出た話題を教室に掲示し、意識して活用できるようにしたことや、対話の場(ベアトーク、グループトークなど)を工夫したことは、児童の意識変化につながっている。 ①長期休暇を活用して、理論研修や指導案検討等の研修を積極的に行い、授業改善に向けて職員の意識統一に取り組んだ。	・放課後パワーアップの時間や取組内容について、学校で統一をして重点的に取り組む。火曜日:学級の課題に応じた問題 木曜日:個に応じた問題 ・職員全体が共通認識を持って研究授業や職員間の積極的な授業交流を行い、良いところを取り入れたりお互いにアドバイスしたりして授業改善に取り組む。(授業改善の視点) ①既習事項の明示 ②考えを持ち、伝える場の設定 ③板書の工夫	A	・複式の授業、一人一人がしっかりと学習に取り組んでいる姿が見られてよかった。 ・放課後パワーアップの充実で成果が出ている。					
信頼される学校	地域に開かれ、保護者から信頼される学校づくりを推進する。 安心安全な教育環境の整備・保持に努める。	①地域・保護者とのつながりを深める ②働き方改革の推進	①積極的な情報公開に努める。 ・学校だより、学級通信の充実 ・HPやヤマトを使った情報公開 ・積極的な授業公開(授業参観、学校運営協議会、民生児童委員訪問等) ②校内体制を充実させる。 ・校内各委員会の計画的な実施 ・部会や担任会等の時間の確保	①保護者アンケート(学校の取組、教職員の姿勢)における肯定的評価の割合 ②教職員アンケート(やりがい、充実感・児童と向き合う時間)における肯定的評価の割合	80%	80%	100%		125%	4	○保護者アンケートでは、大変肯定的に評価していた。学校だより、学級通信等で情報公開に努めた。さらに、保護者とは、児童の問題行動だけでなく、良さについても連絡、連携を密にとり、全職員でベクトルをそろえて教育活動に取り組んだりしたことも評価につながったと考えられる。 ●教職員アンケートでは、やりがい・充実感においては、肯定的評価が100%であったが、児童と向き合う時間における肯定的評価が60%と低かった。放課後に各委員会や行事等の準備が入ることが多く、教材研究の時間が十分に取れなかった。	・今後もさらなる積極的な情報公開に努め、信頼される学校運営を推進していく。 ・児童の様子について情報共有し、一人一人に確実な力をつけていけるよう、取組を進めていく。 ・職員間で相談したり、助け合ったりすることができているので、今後も風通しのよい職場づくりを推進していく。 ・各委員会の精選、行事の見通しの持ち方等、放課後の時間を有効に使うことができるよう、改善点について職員全体で考えていく。	A	・特になし					